よい聞き手になること



「子どもの言うことをよーく聞くんです。今その子が言っていることも，今まさに言わんとしていることも，まだ全然言えてないことも。その子にとっては意味のあることなんです。その子には大事なことなんです。ただのおしゃべり遊びだなどと思ってはいけません。

話し手としてのその子を尊重することです。何もかもすっかり，よく聞いてあげてください。自分の言うことが聞いてもらえていると感ずることや，他の人が自分の言っていることに関心をもってくれていると感ずることは，成長しつつある人としてのその子にとっては，実に素晴らしいことなんです。

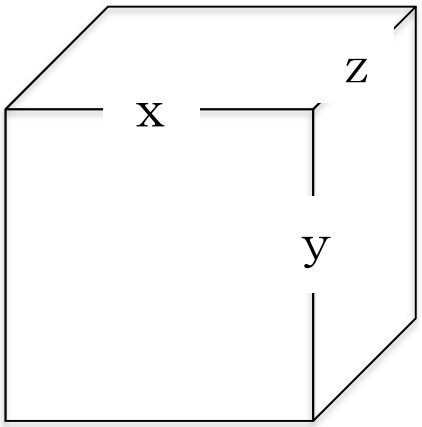
子どもは，その子なりにベストを尽くしているんだと思うことです。子どもにとっては，あなたに話をしたいということの方が，正しくしゃべれるかどうかよりも，ずっと重要なことなんだと思うことです。」

アメリカの言語病理学者であるウェンデル・ジョンソンのことばです。子どもの話をよく聞き，あるがままを認めて理解することの大切さが伝わってきます。良い聞き手になることが，ことばの成長につながります。

また，ウェンデル・ジョンソンは，話しことばの問題のとらえ方について「話しことばの問題の箱」を示しました。この図では，３つの軸でできる箱の大きさが問題の大きさを表しています。

x 軸＝話しことばの特徴（形として表れている問題），y 軸＝聞き手の反応，z 軸＝話し手の反応　を示しており，周りの人との関係性に働きかけることによって，y 軸・z 軸が小さくなり，結果的に全体的な問題が小さくなることを示しています。

このことは，子どもにとって，ご家族の皆さんや担任，ことばの教室の担当者などとの関わり方がとても大切であることを意味しています。



※参考文献：「教室の言語障害児」　W.ジョンソン，D・ミラー共編　田口恒夫訳　日本文化科学社
「子どもの心を育てる」栃木県北部地区言語障害児教育研究会研究集録（H20）